

# 話心

第15回



## あ～夏休み

先日の記録的な大雨で被災された地域の方々にはお見舞い申し上げます。うちは本堂に軽い雨漏りがあったくらいで何とか持ち堪えた。ホッと一息ついた翌日の朝焼けを見ながら「あ～…夏が来る」と久しぶりに胸が躍った。ロクな思い出もないのに…

小学六年の夏休みに自転車友達数人と海パン姿のままチャリンコで海とプールを何度も往復して泳ぎまくった、最高に楽しかったがその夜は日焼けで肩から背中にかけて全部水ぶくれになり半泣きで座ったまま丸めた布団を抱いて寝た。

高校の頃、先輩が車で熊本遊園地へ連れて行ってくれるって日に寝坊し、携帯電話なんてない時代、置いて行かれた。どうしても行きたいが金のない俺は国道でヒッチハイクして国見のフェリー乗り場まで行き、一人分何百円で熊本に渡り、降りたら近くのゴミ捨て場に捨ててあったチャリンコで

遊園地まで十数キロを走り、入場料もないから裏手に回って金網よじ登って(もう時効ですよね?)中に入り「プールにいる苦だ」と受付のオジサンに「中に忘れ物しました」と言って入れてもらい、よっこさ皆と合流した。今考えたら、もし出会えなかったら帰りはどうするつもりだったんだろ?

大阪に出たばっかりの十九歳の夏、風通しの悪い部屋が暑すぎて「睡眠なんて二日にイッペンで充分でしょ?」と涼しいコンビニでバイトしたら当然二日目でダウンした。奈良まで徹夜でツーリングした帰りなんて疲れ過ぎて戻し、走りながらフルフェイスのヘルメットの中で自分のゲロで溺れかけた。

ホントにバカな話、人生そのものが夏休みみたいな感じだった気がする。一応学校も行って、仕事して、それなりにシンドイこともあったんだらうけど。真剣には生きてなかった。楽しけりゃいいと思っていた。よく子供たちの話で夏休みにグレたりバカなことやったりすると聞か、ずつと気分が夏休みなら、要はずつとバカってことか…。ん?それが何か?



住職 松竹正純 さん = 文  
(まつたけしょうじゆん)

- 昭和44年 大阪府堺市生まれ
- 大黒山徳性寺住職 (雲山市)
- 23歳で、北米大陸をオートバイで縦断。
- 様々な職業を経て、28歳で出家得度。